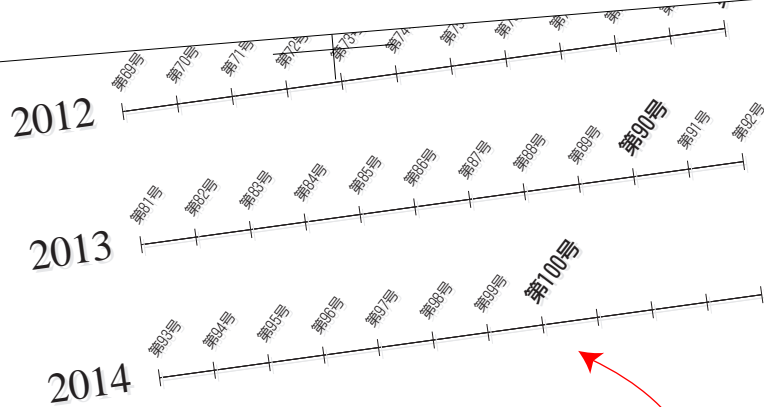


今号でついに20号を迎える。普通の雑誌なら記念に何かをするところなのだが、ORJは何もしない。普通の雑誌でないで何もしないという答え方もできるし、〇号記念なんて所詮は独りよがりさ、という斜に構えた答えもあり得るけれども、正直に言えば「そんなことを考える余裕がなかった」。気づいた時にはもう発行目前だ。

そういえば第10号の時も何もしなかった。ちょうどOFF会がありその報告が載って、いくぶんか賑やかな誌面にはなったものの、意図して何かをしただけではない。その流れに従えば、今回も何もすべきではなく、肅々と号を重ねていくべきなのだろう。

号を重ねていくことよりも、その積み重ねを祝うことよりも、その号その号で何を伝えられたかが大事。何を得たかが大事。そう思ってきた。有料化してからは余計に強くそう思う。対価をいただくことへの責任を負うことであるし、その感覚を誌面にフィードバックできている、と独り感じている。「10号前に比べて格段と良くなった」と胸を張って言える今号。次の10号、その次の10号も、そう言って肅々と作りたい。



いま、ここにいる。